

中国との真の取引(2011年9月14日付けフォーリャ・デ・サンパウロ紙)

イヴァン・ラマーリョ

ブラジルの国外取引はここ10年間で大幅な成長を見せた。2000年には1100億ドルであった取引が2010年には3830億ドルに及んでいる。今年はおおよそ5000億ドルに及ぶ予想だ。この成長には様々な要因がある。しかし主要因のうち一つは、中国との接近であることは間違いない。20億ドルであった中国との取引は、10年後の2010年には560億ドルへ飛び上がった。

今年の上期だけでも中国との取引は347億ドルに上り、そのうち輸出は200億ドル、輸入は147億ドルで、ブラジルにとっては差し引き53億ドルの黒字だ。40%という目下の成長はおそらく続くであろうため、2011年の終わりには両国間取引は800億ドルに及んでいるだろう。

勢いのある取引拡大ながらも、中国とブラジルの関係は常に批判的である。特にブラジル産業を代表する企業からの批判が絶えない。というのも、中国への輸出が基本産品に集中しているから当然だ。本年上半期の輸出額は200億ドルで、そのうち177億ドルは基本産品、主には鉄鋼石と大豆であった。工業製品はわずか23億ドルに過ぎない。

このわずかばかりの数値は、中国市場における販売多様化へはまだまだ長い道のりが残されていることを示している。大きな一歩としては、国家輸出振興庁(APEX ブラジル)が販促のため北京に近代的な事務所を設立したことだ。

ブラジル生産品を中国で販売拡大する可能性は大いにある。中国は世界でも有数の輸入国で、年間1兆ドル程度の輸入を行っている。そして輸入は何も基本産品に限定されているわけではない。むしろ中国市場全体では、外国産で付加価値の高い商品へ大変オープンなのだ。輸入の成長は多様化、また新規サプライヤーの増加へと繋がる。

生産業者を奨励し、中国市場における販売率先力を高めまた視察団ミッションを増加する以外の道はない。レアル高であっても、ブラジル製品には他国に浸透するだけの品質がある。「Brasil Maior」政策にある税負担削減、生産業への更なる融資、貿易促進強化を行えば、中国市場へのより飛躍的な接近が可能である。

ブラジルが中国から輸入している製品は、おおかた自国産業への補完品である。輸入目録によれば部品、回路基盤、その他ブラジルで生産ラインへ投入される生産資材が上位を占める。2011年上期に中国から輸入された上位51品目のうち、消費資材はわずか9品目である。大半の品目は(42品目、全体の80%)はブラジル国内での製品化に必要な部材へ集中している。

こうした中国からの輸入は、主にブラジルで組み立てられる製品の競争力維持に貢献している。中国との取引にはプラスの要素が多々存在する。今年の結果を見ても、ブラジル産業にとって目下最大の貿易パートナーである中国のポジションは定着化し、新たにビジネスを開始・拡大する企業数は今後益々増加するであろう。

※イヴァン・ラマーリョ

エコノミスト。

前ブラジル商工開発省事務次官。2009年2月以降6ヵ月毎に開催されている日伯貿易投資促進合同委員会の共同議長を第一回から4回まで務める。現在は、ブラジルトレーディングカンパニー協会会長(Abece)